

インドネシアの格上げについて

2010年7月14日 国際投信投資顧問株式会社

投資適格級への格上げ

7月13日、日本格付研究所（以下、「JCR」）は、インドネシア共和国（以下、「インドネシア」）の自国通貨建て長期債格付け、外貨建て長期債格付けをそれぞれ一段階ずつ引き上げ、BBBおよびBBB-としました。

今回の格上げにより、JCRによるインドネシアの長期債格付けは、自国通貨建て、外貨建てともに投資適格級となりました。格付け記号の体系および定義は格付け会社により異なりますが、一般にBBB格（ムーディーズではBaa格）以上の格付けについては、債務支払の確実性が認められています。安全性を重視する投資家においては、債券に投資する条件として投資適格級の格付けを求める場合が多く、投資適格級の格付けを取得することは、幅広い投資家を獲得することに繋がります。

インドネシア経済は、過去10年以上にわたり内需主導による順調な成長を継続しており、近隣アジア諸国の多くが米国発の経済危機の影響でマイナス成長に陥った2008年第4四半期から2009年上半期にも、同国経済は内需の下支えにより4~5%台のプラス成長を維持しました。世界第4位の人口を擁し、一人当たりGDPも2千ドルを超えた同国では、購買力の上昇がさらなる消費の拡大をもたらす好循環により、今後も民間消費を中心とした底堅い内需に牽引された経済成長の持続が期待されます。また、アジア危機時に悪化した同国の財政状況は、国家財政法に基づく財政規律の枠組みのなかで堅実な運営が続けられた結果、大幅に改善しました。中央政府の債務はGDP比で28%（2009年末）、歳出に占める利払の割合も10%（同）と低下しており、財政上の債務負担は大きく軽減されています。

インドネシアの格付けについては、S&Pが今年の3月に、ムーディーズが6月に、それぞれ格付け見通しを「安定的(ステイブル)」から「強含み(ポジティブ)」に変更しています。JCRは今後の同国の課題として、外的な金融・経済情勢の変動に対する耐性を高めて国際的な信頼を維持・向上すること、投資事業環境やインフラ整備等による国内外からの投資促進により成長を加速すること等を指摘しています。これらが実現すれば、同国の格付けはさらに改善することも期待されます。

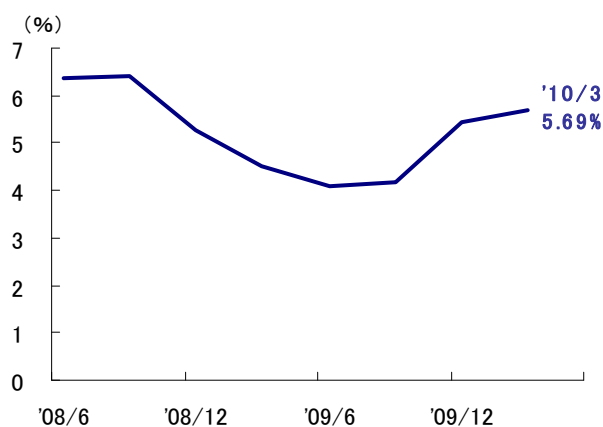
図表1. インドネシア格付け一覧(長期債務格付け)

2010年7月14日現在

	外貨建て	自国通貨建て	見通し
JCR	BBB-	BBB	安定的
S&P	BB	BB+	ポジティブ
ムーディーズ	Ba2	Ba2	ポジティブ
フィッチ	BB+	BB+	安定的

出所)Bloomberg

図表2. インドネシア実質GDP成長率
(前年比：2008年6月期～2010年3月期)



出所)Bloomberg

図表3. インドネシア・ルピア対円レート推移
(2008年7月14日～2010年7月13日)



出所)Bloomberg

「本資料に関してご留意いただきたい事項」

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。
 ○本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
 ○本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
 ○本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。